

令和7年度第2回花巻市行政評価委員会（暮らし・健康・いのち部会）会議録

1 開催日時

令和7年7月31日（木）午後1時30分～午後3時20分

2 開催場所

生涯学園都市会館（まなび学園）2階 第2学習室

3 出席者

（1）委員 5名

中村さゆり委員（学校法人富士大学経済学部助教・部会長）、峯村諭委員（花巻市PTA連合会副会長）、日下明久美委員（花巻市食生活改善推進員協議会副会長）、日下一也委員（花巻市民生委員児童委員協議会理事）、冨手京子委員（花巻市地域婦人団体協議会理事）

（2）説明者（施策担当部長、施策主管課長）2名

阿部勇悦（健康こども部長）、伊藤浩（健康づくり課長）

（3）事務局（施策評価及び事務事業評価担当）3名

小原広幸（財政課長補佐兼経営財務係長）、沢口菜花（秘書政策課企画調整係主査）、小原紘（秘書政策課企画調整係主査）

4 議事録

（市が実施した施策評価のうち、花巻市行政評価委員会の評価対象施策である「健康づくりの支援」について評価を実施。）

（1）施策主管課による説明、質疑応答

《施策主管課説明後》

（日下一也委員）予防接種の個人負担をもう少し安くできないものか。インフルエンザの予防接種を受ける際、北上市では1,000円以下となっていると聞いている。

（伊藤健康づくり課長）高齢者の自己負担額については花巻の方が安いという認識であった。

（冨手京子委員）带状疱疹の予防接種について、前年度よりも負担額が増えるという話を聞いたがどうなのか。また、予防接種が2種類あり金額が異なる。それぞれの効果について差があるのかも伺いたい。

（伊藤健康づくり課長）带状疱疹の予防接種には生ワクチンと不活化ワクチンの2種類がある。生ワクチンについて、市の助成額は1回あたり4,000円。不活化ワクチンについて、1回あたり10,000円で上限2回まで助成している。不活化ワクチ

ンの効果は約9～10年。生ワクチンの効果はその半分ほど。助成額の差額については、予防接種に係る費用が病院ごとに異なる場合がある。

(富手京子委員) 助成額を引き上げることは難しいか。

(伊藤健康づくり課長) 昨年度から始めたもので、現時点では想定していないが、今後状況に応じて検討していきたい。

(富手京子委員) 質問の意図としては、带状疱疹は発見が遅れると重症化のリスクがある。市の助成額を増やして予防接種を受けやすい状況があればよいのではないかと考えてのこと。

(日下明久美委員) こころの健康について伺う。花巻市の自殺率は全国、県の平均を上回っているため、対策を講じる必要があると思われるが、これまでの取り組みの中で、有効だと思われた具体的な対策について伺いたい。

(伊藤健康づくり課長) 具体的な取り組みとして、ゲートキーパー養成講座の開催や、インターネットを活用して心の健康状態をチェックできる「こころの体温計」の運用、こころの講演会の開催を行っている。また令和6年3月に第2期花巻市自殺対策計画を策定しており、現在はこの計画に基づいた取り組みを進めている。策定にあたって、関係機関の方々からご意見を頂戴してきた。現時点としては、県の保健所や教育委員会、警察など、関係機関で集まり、今後の取り組み内容を話し合い、自殺対策を講じることとしている。今年度は、自殺未遂された方や周りの方々にどのように支援していくか、ということテーマに検討しているほか、ゲートキーパー養成講座も開催する予定である。

(日下明久美委員) ゲートキーパーという言葉に馴染みがない。養成とあるが具体的にどのような取り組みなのか。

(阿部健康こども部長) ゲートキーパーというのは、自殺願望があるなど心の状態が悪い方の様子に気づいて、話を聞き、相談機関やこころの電話などにつないでいただく方のこと。ゲートキーパー養成講座を受講することでゲートキーパーになることができ、市の自殺対策計画では年間600人ほど養成することを目標としている。ゲートキーパーを増やすことで、心の健康状態が悪い人に気付いてあげられる機会が増えることを期待している。ゲートキーパー養成講座は5年以上継続して実施しており、市の職員も受講している。

(日下明久美委員) コロナ以降、対面で話す機会が減っているように感じているほか、インターネットの普及によって直接人と話すことを煩わしいと思う方が増えているという印象を受ける。人とのコミュニケーションを自ら望まない人への対策も必要なのではないかと思う。

(伊藤健康づくり課長) 自分で自分の状態を確認できる「こころの体温計」というものがある。気軽にチェックしやすいツールとして使える。

(阿部健康こども部長) 自分で気づけるようなツールも市で用意しており、それを見

て危ないと思ったらすぐ相談機関につながるようになっているので、直接やり取りできない部分を補うようにしている。

(峯村諭委員) 仕事柄ゲートキーパーが身近であるが、今の話を聞くと、専門機関は認知しているが一般的な認知はまだ広がっていないと思った。

(日下明久美委員) こころの体温計の話があったが、心の健康状態が悪い人というのは、自分でその状態を把握できていないため、残念な結果につながることもある。色々な窓口はあるけども、そこに行って相談できないのが現状なのではないか。そういう方にとって簡単に寄りやすい場所や仕組みはできないだろうか。

(伊藤健康づくり課長) 相談機関は県や民間でも設置しており、土曜日や遅い時間に開いている場所もある。相談機関の情報についてはパンフレットにまとめて周知しており、随時新しい情報を入れて更新している。

(富手京子委員) 成果指標の2つ目、健康増進に関するアンケートで令和6年度実績値が29.06%となっているが、健康ポイント事業の登録数はどのくらいか。また、1日の歩数を競う方々がいると聞いており、1日6,000~7,000歩は健康的だと言われているが、10,000歩以上は健康的ではないと聞いたことがある。歩きすぎないように周知していないのか。歩くことは健康増進につながると思うが、歩き過ぎはかえって悪影響だと思う。80歳の知人は、自分の過去最高歩数よりも歩こうとしていて、朝早くから、冬道でも歩いているそうだ。健康に悪影響が出ない1日当たりの歩数を表示した方が良いのではないか。

(伊藤健康づくり課長) 健康ポイント事業は令和4年度から始めた事業であり、スマートフォン使って1日の歩数に応じてポイントを貯め、期間内に600ポイント以上獲得した人の中から抽選で、電子マネーギフトが受け取れるというもの。自分で歩いた分がポイントになることで、楽しみながら健康につなげることを目指しているので、自分のできる範囲で、楽しみながら参加していただくことが望ましい。なお事業の期間は6月1日から11月30日まで。事業を開始して1年目は冬も実施したが、庁内で検討した結果、冬は実施しないこととした。また、令和4年度から令和6年度に取り組んだ方の歩数を比較した結果、平均して500歩ほど歩数が増えた。また、1万歩以上歩くと健康に悪影響が出るのかどうかについては、研究結果等を確認してみるが、基本的には楽しみながら歩いてもらうことが前提なので、無理して歩きそうな人には無理しないよう声掛けしていただくと良い。

(中村さゆり部会長) 令和3年度から令和5年度までの実績値が記載されていないのは、設問が令和6年度から追加されたからか。

(小原秘書政策課主査) 設問自体は令和5年以前も調査している。ただ今回の施策評価は令和6年度からスタートしている新しい総合計画に対する評価であるため、令和5年度以前の数値はシート上に記載していない。

(中村さゆり部会長) 定期健康診断の未受診者への対策はどのように行ったのか。

(伊藤健康づくり課長) 特定健診については、専門業者と相談しながらAIを活用し、未受診者の性格などを分析しながら周知を行った。例えば、心配性な方などに見合った表現を使うなどして、受診勧奨した。また国保に加入している方について、かかりつけ医から健診の受診について声掛けをしていただいたり、パンフレットを配布いただいたりなど、少しずつ浸透してきており、成果につながってきていると考えている。がん検診については、土日や夕方の時間に検診を行うなど、何パターンか設けた中で、少しでも受けていただけるような状況を作ることや、追加検診の際に受診勧奨し受診を呼び掛けるなどしている。

(中村さゆり部会長) 承知した。質問については以上とする。

《阿部健康こども部長、伊藤健康づくり課長は退席》

(2) 委員会の評価結果の集約【施策評価検証シートの整理】

① 「◎前年度評価の振り返り」において前年度の評価⇒見直しが機能しているか

(峯村諭委員) 野菜摂取量アップ促進事業の開催回数が妥当かどうかは分からないが、見直しとしては正常に機能していると思う。

(中村さゆり部会長) 記載方法の提案として、野菜摂取量アップ促進事業の開催について、「施策を構成する事務事業一覧」の中でどれに該当するか分からないので、一覧の中に記載してはどうかと考える。

(富手京子委員) 健康ポイント事業により運動習慣の改善や医療費の削減も見込めるという説明があったため、見直しは機能していると思う。

(中村さゆり部会長) 機能していると思うが、情報発信をどのように行ったかが記載されているとなお良いと感じた。

(中村さゆり部会長) 前年度評価時における今後の方向性に、「他の事業やイベントに乗じた情報発信の機会」についての記載があるので、行われたものが記載されていると良い。この項目については、見直しとして概ね機能している、ということで良いかと思われる。

② 「3 成果指標の達成状況」の「達成状況に関する背景・要因」の分析が的確に行われていたか

(峯村諭委員) 成果指標の達成度がcとなっているが、どのような判断でcとなっているか。

(小原秘書政策課主査) a・b・cの区分けについてだが、目標値に対して実績値が100%以上の場合はa、80%から100%の間はb、80%以下はcという評価になる。

(日下明久美委員) 成果指標の出典が市民アンケートとなっているが、どの設問に該当するものか。

(小原秘書政策課主査) 今回の施策の成果指標の出典は、事前に配布していた市民ア

アンケート結果報告書の21ページに記載している。該当する設問は、「C-2<健康管理>あなたは健康管理について日常生活の中で取り組んでいることはありますか」で、(1)~(10)の選択肢からいくつでも回答できるもの。今回の施策には3つの指標があるが、この設問のうちどの選択肢を選んだかで、各指標の成果を測っている。

(富手京子委員) アンケート調査の回答率はどのくらいか。

(小原秘書政策課主査) 市の住民基本台帳から無作為抽出した2500人のうち、回答があったのは991人。そのうちインターネット上での回答は299件となっている。回収率は約4割。

(峯村諭委員) 分析の中でライフスタイルや食習慣の変化により目標達成できなかったと推測、とあるが、これは背景であり、なぜ変化があったのかが要因となるため、そのことについて記載があるとより良い分析となると思う。

(中村さゆり部会長) 令和6年度の数値が要因分析の文中にあるとよりわかりやすくなって良いかと思う。

(峯村諭委員) どうすれば上がるのか、要因が分かっていると良い。他の指標もそうだが、各成果指標はそもそも目標に到達しづらいものとなっているのか。

(小原財政課長補佐) 目標について、達成できる見込みをもって設定するのか、高く設定するかで結果が異なる。また、ポジティブな目標とネガティブな目標とあり、前者は高ければ高いほど良い目標、後者は市として0でなければならない目標を指す。例えばこの施策には関係ないが、ボコボコになった市道で車を損傷するなどの事故が起こることはあってはならないので、件数の目標は0件となる。これがもし1件でもあれば、達成度はbまたはcとなる。こういった背景から目標値の設定については、厳しく設定したりすることがある。また、例えば狂犬病の予防接種について、噛まれて発症すると致死率が100%と言われていることから予防接種が進められているが、飼い主の意向もあり、接種率100%がそもそも実現困難。このように現実的な視点も含めて設定されるため、指標によって設定の仕方が異なってくる。例えばこの施策でいえば、糖尿病の患者を0人にする、自殺者を0人にする、というのは施策の指標として設定するのはなかなか難しい。

(日下明久美委員) 施策の達成度がCとなっているが、一見すると達成度が非常に低い印象を受ける。何もできなかったからCというわけではないため、表記の仕方を考えた方が良いのではないか。

(小原秘書政策課主査) 日下委員のご指摘の通り、施策として何もしていないわけではない。施策の成果指標の目標設定の考え方に依るものだが、だからと言ってAやBが取りやすい指標とするのも、施策を実施する上で適切とは言えない。

(峯村諭委員) 達成度がCであったとしても、Bに近いCと、Dに近いCというのが

あると思う。そういう表現となると印象が変わるかと思う。

(小原財政課長補佐) Cは不合格、というような意味合いではなく、まだ改善や成果向上の余地があるもの、という捉え方で良いと思う。

(富手京子委員) 分かる人が見ればそのような見方ができると思うが、一般的な目線としてCは低い評価として見える。

(小原財政課長補佐) この表記を変えらるとなると、過去との比較がしにくくなる。Cはまだやるべきことがある、という意味であり、ネガティブなものではないと認識いただければと思う。

(日下一也委員) 例えば達成度A～Dのほかに数字で達成率を表記するほか、A～Dがそれぞれどのような意味合いを持つのか、ということが記載されていると良いのではないか。

(小原秘書政策課主査) ご意見として頂戴する。

(中村さゆり部会長) 全体としての確に分析されていることとして評価する。

③「4 施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか

(中村さゆり部会長) 「なし」としている理由や説明が記載されているとなお良い。

(峯村諭委員) 健康診査事業について、課長から説明にあったように、かかりつけ医からの受診勧奨のことも記載されていると良い。

④「5 施策の総合的な評価」が的確に行われているか

(峯村諭委員) 歯周病予防の受診の働きかけについて、LINEなどSNSを活用した積極的な周知が図られると良いのではないか。

(日下明久美委員) 特に働き盛り世代はSNSに慣れていると思われるため、SNSを活用した周知とした方が良いと思う。

⑤シート記載内容全般について

(中村さゆり部会長) 部会で使用する資料について、各回で使用する資料が一概に分かるように資料の上部などに表示等があるとありがたい。

他に意見が無いようなので終了とする。

(以上)